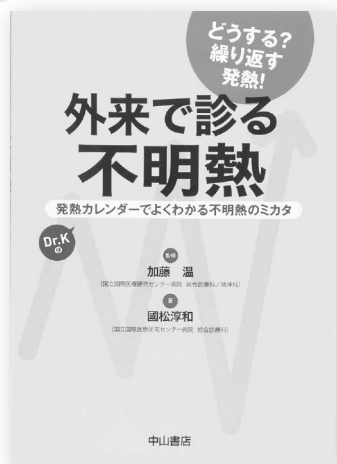




外来で診る不明熱

Dr.Kの発熱カレンダーでよくわかる不明熱のミカタ

加藤 温＝監

国松淳和＝著

定価 3,850 円／A5 判・255 頁／中山書店／2017

本号特集をご企画・ご執筆の国松先生 (p.1・19・22・78) による関連書籍。連載「臨床小説」(p.129) も、ぜひ併せてお楽しみください。

総合病院 DPC 化の今日、外来で不明熱を診ないのは発熱の全景をまだ見ていないと言える。国立国際医療研究センター病院総合診療科では 2014 年以来、「不明熱外来」を開設し、原因不明の発熱患者を診察している。多くの不明熱患者を診療して見えてきたことは？ “発熱パターン”と“発熱カレンダー”で不明熱を診よう！



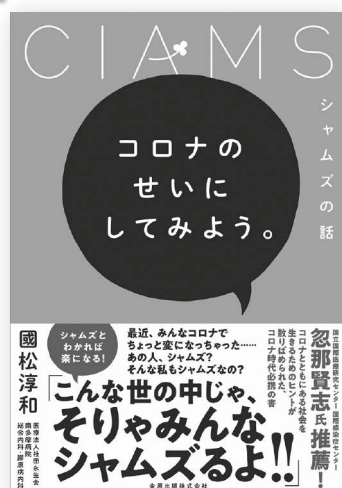
「これって自己炎症性疾患？」と思ったら

疑い、捉え、実践する

国松淳和＝著

定価 4,180 円／A5 判・280 頁／金芳堂／2018

疾患群として定義された歴史が浅く、ほぼ出会わないような遺伝性のレア疾患、かつ緊急性もさほど高くないと考えられているがゆえに、認知度が低い自己炎症性疾患の診療の基本的な方針を、一般診療・日常診療という視点から徹底的に掘り下げた。本書では診療だけでなく、患者ケアまで扱っており、自己炎症性疾患を診断したい、あるいは診療を引き継ぐことになったすべての医師のための手引書である。



コロナのせいにしてみよう。 シャムズの話

国松淳和＝著

定価 1,430 円／四六判・168 頁／金原出版／2020

新型コロナウイルス感染症が流行してからというもの、感染したわけではないのに「何だか体調が悪くなってしまった」「ちょっと変になってしまった」という方はいませんか？ そういう人たちが置かれている状態のことを、「シャムズ (COVID-19/Coronavirus-induced altered mental status: CIAMS)」と名づけました。シャムズのことを理解して、きちんと対策すれば、具合はよくなるはず…。あなた・あの人の具合の悪さは、みんなコロナのせいなのです。シャムズへの対応・予防には、身近の人の助けが必要です。コロナとともにある社会で生きるための優しい処方箋。新規感染の急な沈静により生活を元に戻そうとする反動で、“戻りシャムズ”も発生中！

今月の特集関連本



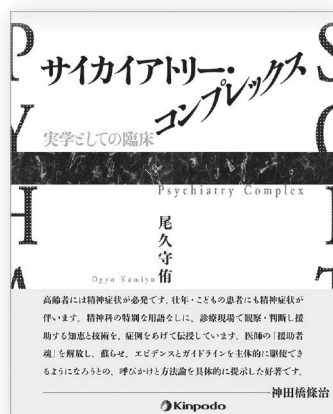
免疫関連有害事象 irAE マネジメント

膠原病科医の視点から

峯村信嘉＝著

定価 7,480 円／A5 判・552 頁／金芳堂／2021

本特集Ⅰ章④「免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象 (irAE) (p.42) をご執筆の峯村先生が、irAE 診療に携わるすべての医療者のために著した渾身の 1 冊。本書が日常診療の現場で活用されることで、irAE 診療においてステロイド治療の必要性を認識しつつも「こんなにたくさんのステロイドを使っても大丈夫だろうか?」「抗腫瘍効果を妨げないだろうか?」「副作用は大丈夫だろうか」と躊躇することの多かった場面で適切な決断を後押しする助けになる書籍。



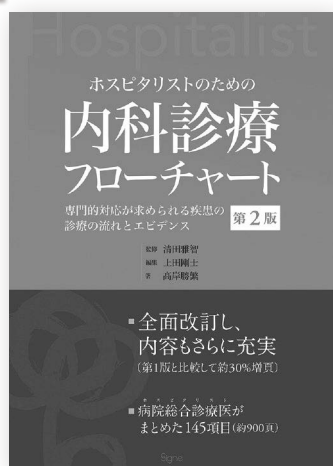
サイカイアトリー・コンプレックス

実学としての臨床

尾久守侑＝著

定価 3,740 円／A5 判変型・196 頁／金芳堂／2021

本特集Ⅰ章⑥「抗 NMDA 受容体脳炎」(p.53) をご執筆の尾久先生による最新刊。患者さん、特に高齢者の表現の背景には、「心の動き」も含めた複合的な要因が存在しています。正しく見立てられづらく、診療科をまたがり治療が錯綜しがちな「多病態併存」の読み解き方を、主に精神神経領域、内科領域の現場から解説しています。先行世代の精神科医へのエディプス葛藤 complex と、身体医学に対する劣等感 complex を抱えた著者が、症状や疾患が繊りな複雑系 complex を、精神科への苦手意識 complex を持つ読者に向けて提示した 1 冊です。

ホスピタリストのための
内科診療フローチャート

専門的対応が求められる疾患の診療の流れとエビデンス 第2版

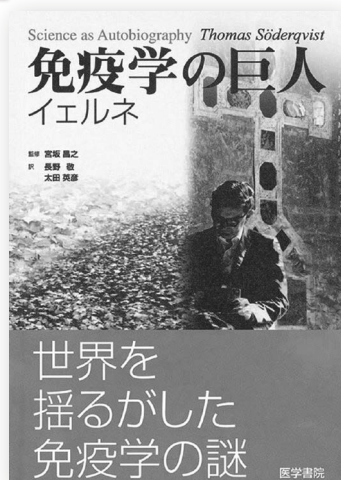
清田雅智＝監修

上田剛士＝編

高岸勝繁＝執筆

定価 8,800 円／B5 判・886 頁／シーニュ／2019

本特集Ⅱ章②「Hematology in General—総合診療／総合内科における血液疾患診療」(p.72) をご執筆の高岸先生による、実臨床に役立つエビデンスガイドブックの改訂版。全面改訂し、内容もさらに充実。第 1 版と比較して約 30% 増頁！ 病院総合診療医がまとめた 145 項目 11 章が、診療の流れとポイントがわかりやすいフローチャート形式で展開される。



免疫学の巨人イェルネ

宮坂昌之＝監修

長野 敬、太田英彦＝訳

定価 5,060 円／A5 判・488 頁／医学書院／2008

ノーベル医学・生理学賞受賞者である免疫学者ニールス・イェルネの波乱に富んだ一生を描く。イェルネは、ノーディンとともに溶血プラーク反応による抗体産生細胞の測定法を開発。1969 年、パーゼル免疫学研究所長となり、1979 年には有名な「免疫ネットワーク説」を発表した。この説はその後、多田富雄氏を含む、多くの免疫学者に非常に大きな影響を与えた。